

第1学年 社会科 学習指導案

1 単元名 「世界の諸地域 南アメリカ州 ―開発の進展と環境問題―」

2 単元について

本単元では、平成29年告示中学校学習指導要領の社会科地理的分野の以下の項目に対応するように構成した。

B 世界の様々な地域

(2)世界の諸地域

次の①から⑥までの各州を取り上げ、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下のア及びイの事項を身に付けることができるよう指導する。

- ①アジア ②ヨーロッパ ③アフリカ
④北アメリカ ⑤南アメリカ ⑥オセアニア

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解すること。

(イ) ①から⑥までの世界の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。(ア) ①から⑥までの世界の各州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。

(内容の取扱い)

イ (2)世界の諸地域については、次のとおり取り扱うものとする。

(ア) 州ごとに設ける主題については、各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる事象を取り上げるとともに、そこで特徴的に見られる地球的課題と関連付けて取り上げること。

(イ) 取り上げる地球的課題については、地域間の共通性に気付き、我が国の国土の認識を深め、持続可能な社会づくりを考える上で効果的であるという観点から設定すること。また、州ごとに異なるものとなるようにすること。この中項目の構成、主なねらいや着目する視点など。

本単元に先立ち、「B 世界の様々な地域(1)世界各地の人々の生活と環境」では寒帯から熱帯までの地域ごとにそれぞれひとつの都市を取り上げて学習した。その中で南アメリカ州は「標高の高い土地に暮らす人々」の小単元でペルーのクスコの伝統的なくらしを例に、高山気候という気候的条件のもとにある人々の衣食住を取り上げた。今回の単元である(2)世界の諸地域では、①アジア②ヨーロッパに先立ち、③のアフリカを最初に学習した。学習指導要領解説に「各州を取り上げる順序は、設定された主題に対する生徒の理解のしやすさなどを踏まえて検討することが必要である。」とあるため、①アフリカ州②南アメリカ州③北アメリカ州④ヨーロッパ州⑤オセアニア州⑥アジア州の順で学習していくこととする。この順番を選択した理由は、共通の地域的課題をかかえていてひとつの州として最もとらえやすいのがアフリカであり、そこから学習をスタートさせたいと考えたからである。教科書の配列で一番最初にあるアジアは、日本が位置する地域としては理解しやすいものの、人口面

積ともに規模が大きく、民族の多様性が一番顕著にみられるため、5つの州を学習したまとめとして最後に位置付けたいと考える。また、アジア州は授業の配当時数も最も多く設定されているため、世界の諸地域のまとめの活動として適している。以下は、各州の学習にあたって設定している主題である。

	地域	主題
1	アフリカ州	国際的な支援からの自立に向けて必要なことは何か考える
2	南アメリカ州	南アメリカ州の開発の進展と環境問題について考える
3	北アメリカ州	アメリカ合衆国への多くの移民が見られるのはなぜか考える
4	ヨーロッパ州	統合（EU）をめぐるさまざまな動きが見られる理由を考える
5	オセアニア州	アジアとの結びつきが強まっている理由を考える
6	アジア州	急速な経済発展の背景を考える

この中項目「世界の諸地域」は、空間的相互依存作用や地域などにかかわる点に着目して、世界の各地域で見られる地球的課題の要因やその影響をその地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成することを主なねらいとし、そうした学習の全体を通して、世界の各州の地域的特色やそこで見られる地球課題と地域的特色の関係を理解できるようにすることが求められている。本単元の南アメリカ州の小項目の学習は、まず州の面積・人口・GDPの把握をしたのち、B(1)で学んだ基礎的な知識や技能を基盤に自然環境や歴史と文化など、州の様子を大観する。ここで身に付けたい「知識」に関わる事項について、学習指導要領では「人々の生活を基に」とされており、生徒の生活経験と結びつけやすい衣食住や生活様式に関わる諸事情を中心に、資料を用意したい。後半は、それらの基礎的な知識をもとに州全体を一つの地域としてとらえてその州に広範に見られる特色ある地理的事象を取り上げ、学習を進めていくことが求められているが、この「主題」とは、取り上げる地理的事象、既習内容、主題の難易度、生徒の生活景観などを考慮して教師が設定することと定められている。本単元では主題を「南アメリカ州の開発の進展と環境問題」とした。

後述する生徒の実態からもわかるように、生徒の南アメリカ州に対するイメージは一面的なものといえるので、問題解決に向けて何が必要とされるのか、何を優先していくべきなのかを考えさせたい。「地理的分野」「歴史的分野」「公民的分野」の3分野にまたがる教科の特性にも配慮すると、南アメリカ州については2年生の歴史的分野で欧米列強の植民地支配を扱い、3年生の公民的分野では地球社会と私たちという単元がある。このことも踏まえて、1年後2年後の学習にもつなげられるよう、単純な地理的知識の習得に留まるのではなく、南アメリカ州の社会的事象を「自分たちの生活とつながりのある事象」ととらえさせたい。

以上を踏まえ、本単元を6時間構成で以下のように指導することとした。第1時～第2時にかけて南アメリカ州全体に共通する項目を学習したのちに、第3時に以降に主題にせまる問題解決学習で扱う具体例のひとつとして、現地の在留邦人の協力が得られたボリビアのサンタクルス県オキナワ市とチリのイジャペル市を取り上げる。実際に協力していただくのは、現職派遣制度を使ってJICAボランティア2022年度一次隊に参加されている2名の教員で、ボリビア日系社会の小学校に携わるI先生(沖縄県小学校教諭)、同じくチリで環境教育に携わるY先生(埼玉県高等学校教諭)である。第3時では、ボリビアの日系社会について稲嶺先生からお話を聞き、第5時、第6時ではY先生にチリにおける環境問題とそれに対するチリ国内での様々な意見を紹介していただき、その内容を班別学習の資料とする。学習指導要領解説には「個別の国や小地域の特徴を細部にわたって学習することのないようにする必要がある」と書かれおり、チリとボリビアの特有の民族構成や習慣、社会的事象に注目するので

はなく、あくまで南アメリカ州に共通する課題を考えていく上でのひとつの事例として扱うことを心掛ける。また、世界の諸地域の学習においては、地球儀、世界地図、地図帳、衛星画像などを活用することはもちろんのこと、「取り上げる主題や州に関わる写真、物語、小説なども活用して学習内容及び学習過程を設計し、生徒の生活経験と結び付いた情報を豊かに獲得させていく指導の工夫も望まれる。」ともあるので、現地の資料や在留邦人の体験などを可能な限り使用したい。

既に学習したアフリカ州の単元では、ベナンで農業支援を行う日本人をゲストティーチャーとしてお招きし、その暮らしについて話をしてもらったことが生徒の興味関心を高めるうえで効果的であった。広い州の例え一か国の限られたゲストティーチャーの話であっても、生徒にとって、それまで「遠く、自分とは直接関係ない」と考えていた地域のことを自分ごととして考えるきっかけになっていたと考える。

3 部会研究主題との関連

研究主題

地球的視野に立って、主体的に行動できる児童生徒の育成

目指す児童生徒像

- ①自ら発信し行動することのできる児童生徒
- ②自らの国の伝統・文化に根差した自己の確立ができる児童生徒
- ③異文化や異なる文化を持つ人々を受容し、「つながる」ことのできる児童生徒

上記の研究主題をうけて、学習意欲を喚起できるような現地在留邦人の資料を準備し、主体的・対話的な学習活動を図るためにオンライン上での意見交換を行う。実際にチリ人が考えている課題と比較させる活動を行うことで、本単元の内容は教科書やインターネット上のことではなく、現在進行形で同じ地球上で起きていることだと実感させることで、異文化や異なる文化を持つ人々を受容し「つながる」ことのできる児童生徒の育成につながると考えた。

4 生徒の実態

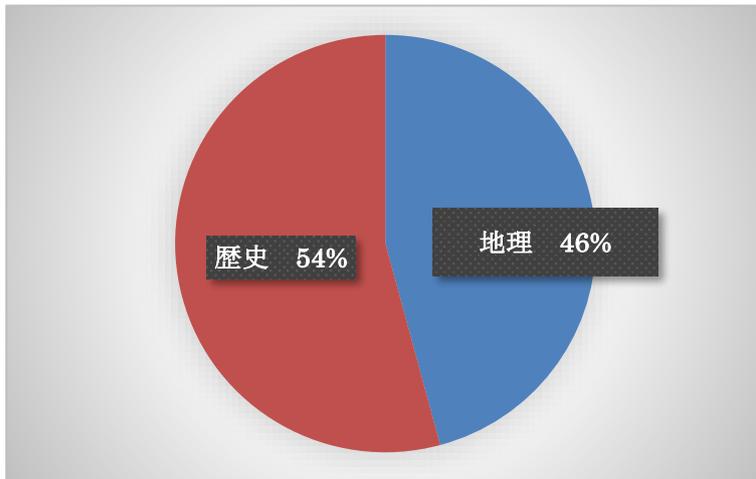
生徒の南アメリカ州に対する予備知識とイメージを確認するためギガタブを使ってGoogleformによる調査を実施した。なお、本学級には、南アメリカ州にルーツのある生徒や南アメリカ州に行ったことのある生徒はいない。

(1) 事前アンケートの質問項目 (在籍数 29 人 回答数 27 人)

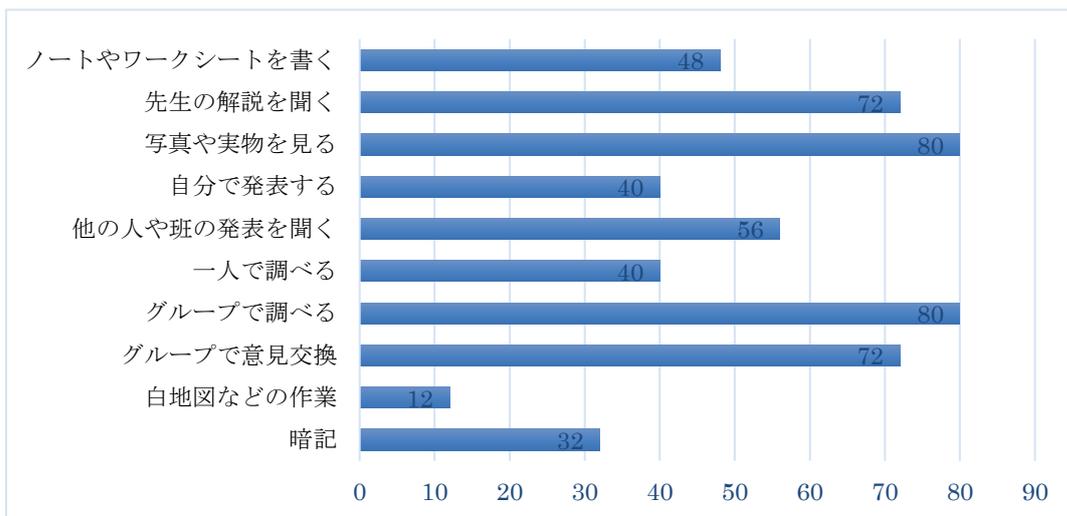
- ① 社会科で好きな分野は何ですか。
- ② どのような授業が理解しやすいですか。(複数回答可)
- ③ どのような授業が「その事象と自分とのつながり」を意識できますか。(複数回答可)
- ④ 南アメリカ州で知っている国を書いてください。(複数回答可)
- ⑤ 南アメリカのイメージを書いてください。(複数回答可)
- ⑥ 世界の諸地域で身近に感じる州を選んでください。(複数回答可)
- ⑦ 小学校でSDGsについて学びましたか?(複数回答可)
- ⑧ SDGsについて知っていることを書いてください。
- ⑨ 南アメリカ州の発展の課題だと思うものをSDGsの17のゴールから選んでください。(複数回答可)
- ⑩ 日本の発展の課題だと思うものをSDGsの17のゴールから選んでください。(複数回答可)
- ⑪ ゲストティーチャーが来る授業は好きですか。

(2) 事前アンケートの結果

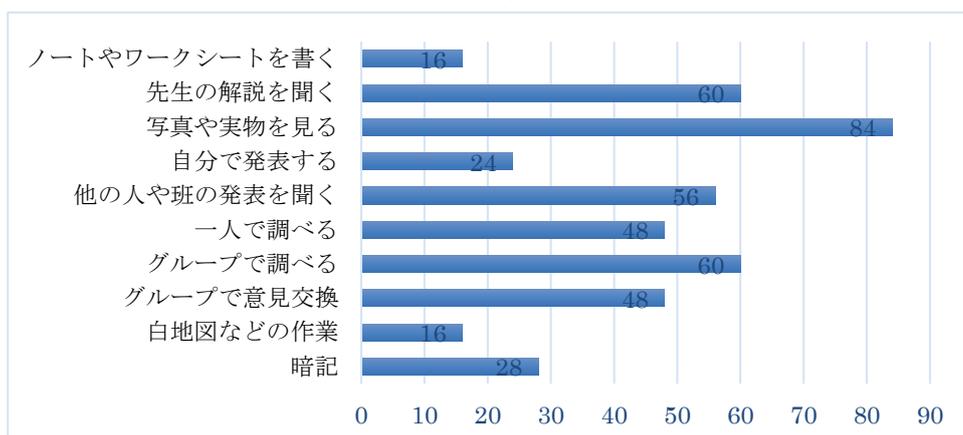
① 社会科で好きな分野についての質問は歴史的分野、地理的分野とも大きな偏りは見られなかった。



② どのような授業が理解しやすいかについては、「写真や実物を見る」「グループで調べる」についての数値が高く、地理的分野歴史的分野ともに模型や写真、動画を多用してきた効果が出ていると考える。



③ どのような授業が「その事象と自分とのつながり」を意識できるかについては、2の質問と比較的近い傾向が見られた。このことから、生徒の理解しやすさと、社会的事象を自分ごととして考えることができるかについては、関係していると言える。



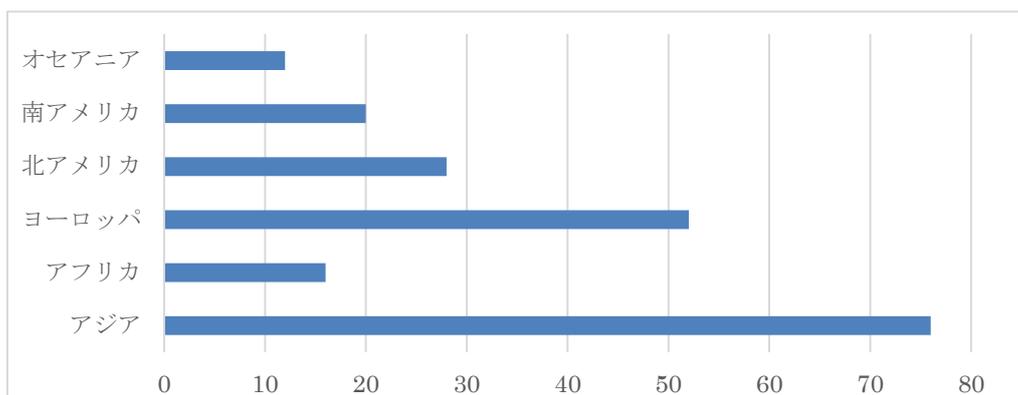
- ④ 南アメリカ州で知っている国については、インド共和国やアメリカ合衆国などの誤答も見られた。世界の諸地域の単元の2番目の小単元として扱うため、一部の生徒はまだ世界の州の全体像を把握できていないと考えられる。

(誤) アメリカ合衆国 (1) インド (1) キューバ (3) 南アメリカ (1)
 アルゼンチン (2) ペルー (3) エクアドル (2) ベネズエラ (2) ブラジル (7)
 コロンビア (1) アルゼンチン (3) ウルグアイ (2) ボリビア (2) チリ (4)

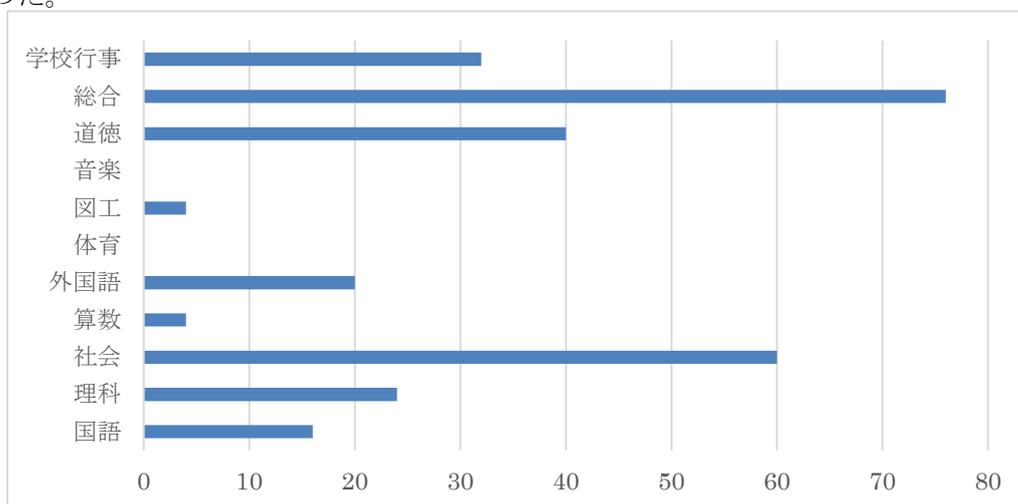
- ⑤ 南アメリカ州のイメージについて回答できた生徒の中には、今回の単元の主題と関わる自然環境について触れている生徒もいた。(原文ママ)

- ・寒そう ・治安が悪い ・技術が進んでいる
- ・北アメリカ州の下にあってブラジルのある州
- ・なんとなく乾燥していそう ・暖かいイメージです
- ・スポーツが盛んなイメージ ・小さい ・スポーツが強い
- ・きれい ・アマゾン川があるから危ないと思う ・ジャングル
- ・ブラジルが進んでいるが他の国はあまり進んでいない感じの国。チリが有名。
- ・山がたくさんありそう (日本で例えると田舎みたいな感じ) 絶景を見られそう。
- ・黒人 ・絶景がたくさんある
- ・寒い、ブラジル、アマゾン川、マチュピチュ
- ・砂漠 赤色 黒色 緑色

- ⑥ 世界の諸地域で身近に感じる州について、本単元で扱う南アメリカ州について学習前に身近な州だと感じている生徒は多くないことがわかる。すでに学んだアフリカ州については身近に感じていると答えた割合がさらに低い。やはり一番身近なのは日本があるアジアで、この結果は他学年で実施したアンケートでも同様の結果が出ている。



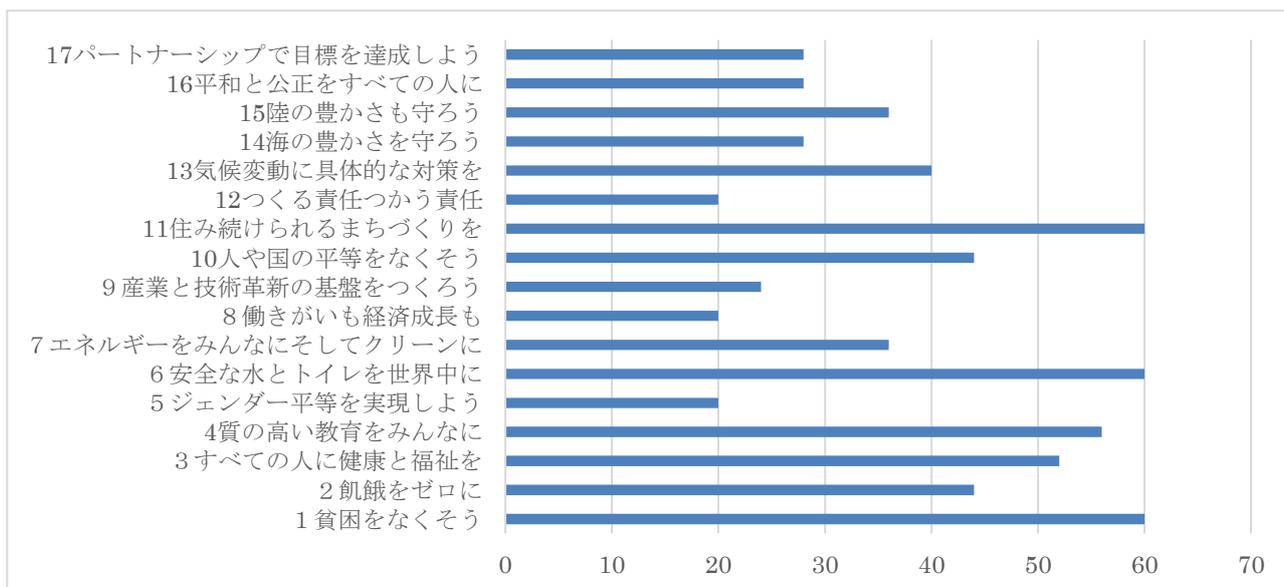
- ⑦ 小学校でSDGsについて学んだかについては、総合的な学習の時間、社会科、行事(学習発表)の割合が高かった。本学級の生徒は2つの小学校の卒業生が混在しているが、小学校による偏りは見られなかった。



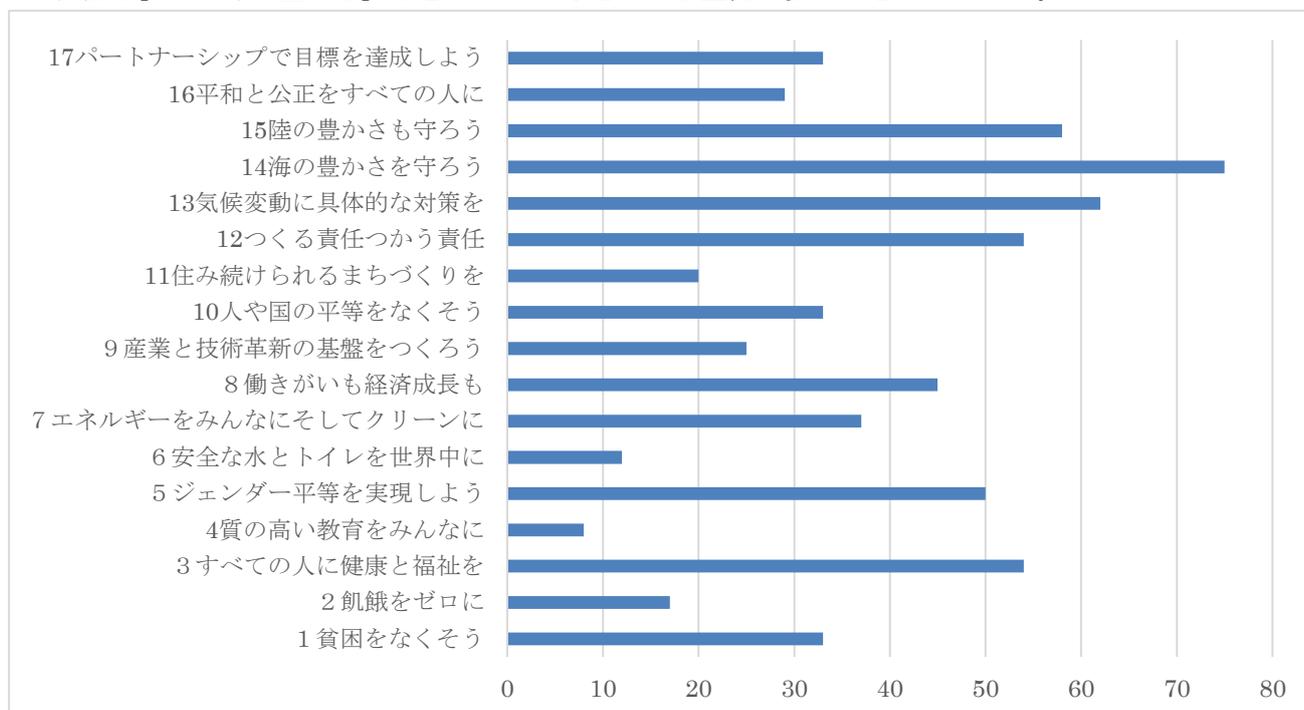
⑧ SDGs について知っていることについて回答できた生徒は、比較的内容を把握していることがわかる。(原文ママ)

- 2030 年前に達成したい 17 の目標
- 絶対にかねえたい 17 の目標
- 持続可能な社会のための 17 の目標
- 持続可能な開発目標の略で 2030 年前に達成したいことが記されている。
- 持続目標
- sasutenabulediveropment gols の略 (スペルがあっているかわかりません)

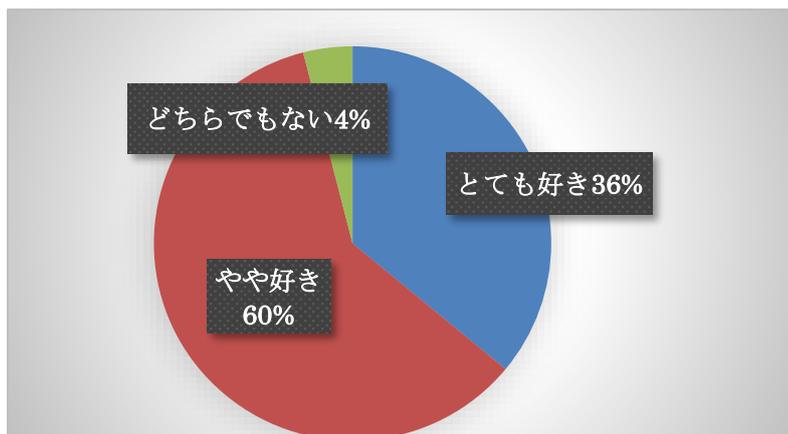
⑨ 南アメリカ州の発展課題としては「1 貧困」「6 水とトイレ」「11 まちづくり」をあげた生徒が多い。これはアフリカ州の学習前に行ったアンケートと傾向が似ている。



⑩ 日本の発展の課題として「1 貧困」「4 教育」「6 水とトイレ」などをあげている生徒は少なく、「13 気候変動」「14 海の豊かさ」などについて考えている生徒が多いことがわかった。



⑪ ゲストティーチャーが来る授業に関しては肯定的な意見の生徒の割合が非常に高い。



5 単元の目標

- (1) 南アメリカ州の地域的特色に関する地図や写真、グラフ、現地の動画などの様々な資料を活用しながら、国際的な支援からの自立という主題をもとに特色を理解する。(知識及び技能技能)
- (2) 南アメリカ州の地域的特色について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現するとともに、予想される課題について、学習内容をもとに考察し、表現する。
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) チリ共和国を例として今後の南アメリカ州の環境問題について「持続可能な開発」の観点から考え、自分の考えをまとめることができる。
(学びに向かう姿、人間性等)

6 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
南アメリカ州の地域的特色に関する地図や写真、グラフ、現地の動画などの様々な資料を活用しながら、国際的な支援からの自立という主題をもとに特色を理解する。	南アメリカ州の地域的特色について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現するとともに、予想される課題について、学習内容をもとに考察し、表現する。	チリ共和国を例として今後の南アメリカ州の環境問題について「持続可能な開発」の観点から考え、自分の考えをまとめることができる。

7 単元の指導計画（全6時間 本時5/6）

時	ねらい	学習活動	資料など
1	「南アメリカ州をながめて」 南アメリカ州の基礎的基本的な知識を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> 南アメリカ州の雨温図と南アメリカの降水量を表した地図を照らし合わせ、リマ、ラパス、マナオス、ブエノスアイレスの位置を考える。 アンデス山脈、チチカカ湖、アマゾン川、などの主要な地形が載っている白地図を完成させる。 南アメリカの人口密度を表した地図を見て、人口密度が低いところと高いところの特徴を考える。 世界の森林減少率の図を班で分析し、森林減少率が高い国や地域を確認する。 教科書に載っている「トライ」の課題「南アメリカ州ではなぜ森林が減少しているのでしょうか」の答えを予想する。 	<ul style="list-style-type: none"> 南アメリカ州の4地点の雨温図 南アメリカ州の降水量を表した地図 南アメリカ州の国々のSDGs達成度ランキング(2022) 南アメリカ州の衛星写真 世界の森林減少率のグラフ
2	「自然環境と共生する生活」 南アメリカ州の自然環境の特色を理解し、その伝統的な利用方法を知る。	<ul style="list-style-type: none"> アマゾン川の河口の写真から気づくことを発表する。 マナオスの魚市場、熱帯の森林の中に造られた畑の模式図の資料からアマゾン川流域の伝統的な暮らしについて班でまとめて発表する。 伝統的な焼き畑農業が大規模な森林破壊につながらなかった理由を考える。 ガラパゴス諸島のエコツアーについての解説を聞き、なぜ自然環境の保護を推進しているのか自分の考えを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 南アメリカ州の衛星写真 アマゾン川流域の伝統的な生活の写真 アマゾン川の漁師のコメント ガラパゴス島でのエコツアー資料
3	「南アメリカで活躍する日系人」 日系人について知り、日本と南アメリカ州の歴史的なつながりを考える。	<ul style="list-style-type: none"> 世界の日系人の分布とサンパウロの日本人街での七夕まつりの様子の写真について気づいたことを班ごとに発表する。 NHK for Schoolの日系移民についての短編動画を視聴する。 多くの日系移民が南米に渡った背景に南米での農業労働者の不足や日本での人口押下と深刻な不景気が影響していたことについての解説を聞く。 ゲストティーチャーの稲峯先生のお話をGoogle Meet上で聞く。 稲峯先生に質問をして、回答を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ゲストティーチャー I 先生(2022年度一次隊小学校教育)の解説 ボリビアの日系人街「オキナワ」の「オキナワ第一日ボ学校」の様子写真 「オキナワ」の町の動画
4	「開発の進行と影響①」 アマゾン川流域を例に、南アメリカ州の環境問題と開発のバランスについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> 1990年と2000年の南アメリカの衛星写真を比べ、変化した点について考える。 大規模な大豆畑の写真と、大豆の生産量と輸出量の国別割合のグラフを見て、前時の焼畑農業との違いを考える。 日本の銅鉱石と鉄鉱石の輸入相手国のグラフを見て、南アメリカの国々(銅鉱石輸入1位、ペルー銅鉱石輸入2位、鉄鉱石輸入2位)に着色し、南アメリカの国々と日本の関係についての考えを書く。 銅鉱石1位のチリに注目し、鉱山開発の街とその産業廃棄物を受け入れているイジャペル市についての紹介を聞く。 イジャペル市の産業廃棄物がもたらす健 	<ul style="list-style-type: none"> 1990年と2000年の南アメリカの衛星写真 大規模な大豆畑の写真と 大豆の生産量と輸出量の国別割合のグラフ 日本の銅鉱石と鉄鉱石の輸入相手国のグラフ JICA ボランティア 2022年度第1次隊共有写真教

		康被害、アボカド栽培がもたらす地下水の枯渇について知る。	材
5 本時	「開発の進行と影響②」 南アメリカ州における環境問題と経済発展について、チリの憲法改正の国民投票結果から両方の立場の意見について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーの Y 先生のお話を Google Meet 上で聞く。 ・チリの北部イジャペル市と首都サンティアゴの2地点の産業の違いについての地図と資料を見る。 ・イジャペルとサンティアゴでのインタビュー資料を見て、経済発展を優先するか、環境保全を優先するかという議論がチリ国内にもあることを考える。 ・憲法改正の国民投票の環境保全の部分についての解説を聞く。 ・ゲストティーチャーY 先生から投票結果についての解説を聞き、自分の考えを発表する。 ・地域により環境保全に対する考え方が違う理由を考えて発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャー Y 先生（2022 年度一次隊環境教育）の解説 ・チリの憲法改正国民投票開票時の様子の写真 ・北部イジャペル市、首都サンティアゴ、南部グレプト市の住人のインタビュー結果
6	「日本と南アメリカ州のつながり」 南アメリカ州における環境問題と自分たちの暮らしのつながりを知り、今の自分にできることを考える。 【予想される回答】 ・アボカドのような南アメリカ州からの輸入品の栽培が現地の環境にどのような影響を与えているかなどを、まず知ることが大切なのではないか。 ・輸入品は現地での生産過程で、イジャペル市の産業廃棄物の例のように何かしらの影響を与えているので、無駄なく日本で使うことが大切ではないだろうか。 ・Y先生を通して日本の中学校で学んだ環境保全の取り組みを現地のモデル校の生徒に伝えてもらうことはできないだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に使用した資料を見て、イジャペル市の鉱山の有害物質廃棄物処理場が地域住民に与えている影響を振り返る。 ・ウェビングマップを改良したものを記入する。(①鉱工業開発②現地の人々の生活に伴う開発③開発に関係する国々) ・イジャペル市の中学校で使う教材にどのようなものを付け足したらよいか考えて班ごとにホワイトボードに記入し発表しチリ在住の Y 先生にオンラインでコメントをもらう。 ・イジャペル市の環境教育モデル校での SDGs 壁画作成の取り組み（2023 年予定。開始時期未定）にどのようなメッセージを送りたいか考える。 ・日本の自分たちの暮らしの中でできる環境保全の取り組みとイジャペル市でできそうなことの共通点を見つける。 ・南アメリカ州の学習を通して、SDGs のどの目標について特に考えたか、またどの目標を重視して行動するかをアイコンを使って考えてワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャー Y 先生（2022 年度一次隊環境教育） ・Y 先生がイジャペル市で使用している環境教育の教材

8 本時の指導

(1) 本時の目標

南アメリカ州における環境問題と経済発展について、チリの憲法改正の国民投票結果から両方の立場の意見について考え、自分の意見をまとめることができる。

(2) 本時の展開(5/6)

段階	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (5分)	<p>1 前時の振り返り</p> <p>「これらの写真はどこの町のものでしたか? どんな問題を抱えていましたか?」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チリのイジャペル市の写真 ・時間がたって乾いた銅の山が近年砂状になって人里まで飛んで健康被害を生み出している。 <p>「スーパーでよく見かけるこの食べ物とイジャペル市の川の関わりとは何ですか?」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お金になる作物としてアボカド栽培が広がっており、大量の地下水が使われているため川の水が枯渇している」 <p>「現地のごみ処理や環境教育についてY先生はどのような活動をしていましたか?」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リサイクルの啓発活動 ・環境モデル校での環境教育のプログラム作り ・環境モデル校の生徒への授業 ・市内の自然環境の保全についての啓発活動 <p>2 本時の目標の確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時につながる部分を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で使った写真資料(鉱山廃棄物の様子、イジャペル市内の様子、枯れた川の様子) ・アボカド(実物)  <ul style="list-style-type: none"> ・イジャペル市で勤務するY先生の自己紹介
展開① (30分)	<p>3 「ゲストティーチャーY先生のお話を Google Meet で聞きましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首都の様子を紹介…短期間の滞在であったがあまり日本と変わらない暮らしをしている人が多い印象だった。第3次産業の従事者が多い。人口密度も高い。 ・イジャペル市の様子を紹介…鉱業に従事している人が多い。非常に乾燥した気候で、農業による水不足も問題になっている。鉱山の廃棄物処理場があるのでそこからの汚染も問題になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Y先生はチリに暮らしてまだ4か月ということを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サンティアゴの写真と動画(約90秒) ・イジャペル市の写真と動画(約90秒)
	<p>チリの首都サンティアゴと鉱山の町の人々の意見を比較し環境問題と経済発展について考えよう</p>		<p>活動 ②環境教育プログラムの作成</p> 
			

4 「みなさんをそれぞれイジャペルと首都サンティアゴの2つの地域の住人という設定のグループに分けました。班内で話し合っ『環境保全は重要だと思うか』という質問に5段階で回答し、黒板にマグネットを貼ってください。

【予想される話し合い】

- ・イジャペル市では環境汚染がひどいので、環境保全は大事だと思う人が多いのではないかな？
- ・イジャペル市の人々には健康被害が出ているので環境保全が大切だと思う人の割合は特に高いのではないかな。
- ・サンティアゴは首都なのでごみや排気ガス問題などもきっとあり、環境保全に対しての意識が高いのではないかな？

5 「経済発展を優先するか、環境保全を優先するかという議論がチリ国内にもあることについてのY先生の説明を聞きましょう」

- ・サンティアゴの都市部では環境保全を重視するべきであるというデモも起きている。
- ・サンティアゴの住人の中でも意識の違いはある。
- ・北部や南部の農業、鉱工業に従事する人が多い地域は環境保全のための規制に反対する人も多いとチリ人の多くは体感している。
- ・イジャペル市でも自分が接している人は環境教育関係者なので、環境保全が大切だという意識が高いと感じる。

6 「Y先生の話聞いて、チリは経済発展と環境保全のどちらを優先するべきかについて班内で話し合い意見をまとめ、代表者が黒板にマグネットを貼って発表しましょう。」

【予想される生徒の意見】

- ・都市部の人はずでに経済発展を遂げている中で暮らしているので環境保全を重視する人が多いのではないかな。
- ・どちらを優先するかは同じ地域でも個人によって意見が分かれるのではないかな。
- ・鉱山関係の仕事をしている人は、有害物質の処



- ・クラスを8班に分け、サンディエゴ市民4班イジャペル市民4班とする。

- ・赤マグネット（首都）×4
- ・黄マグネット（鉱山の町）×4
- 「環境保全は重要だと思うか」の5段階のスケール

- ・後半で触れる憲法改正についても簡単に解説してもらおう。
- ・Y先生の意見もチリをすべて表しているわけなどではないということを確認する。

- ・Google Meet

- ・4の活動のマグネットもそのままにしておき見比べられるようにする。

- ・ピンクのマグネット



サンティアゴ在住の語学教師

理が問題になっているとわかっているがそれが規制されすぎると自分の仕事が成り立たなくなると考えるのが当然ではないだろうか。

- ・その人の仕事と何を優先するかが関わってくるのではないか。

7 「Y先生がチリ人3名にインタビューした結果を聞きましょう。」

Y先生「自分がチリで関わった一部の人たちに憲法改正案の中の環境保全についての意見を聞きました。その人が住んでいる地域と職業に注目して聞いてください。」

①首都サンティアゴのスペイン語の先生（首都で生まれ育ち外国人にスペイン語を教える仕事を長くしている）「環境保全に賛成している」

②イジャペル市の銅山関係の仕事をしている人「環境保全の規制が強まると仕事に影響が出るため反対」

③イジャペル市役所環境局局長「環境保全を推進したいという私の立場からするとこの結果は残念。しかし新憲法制定国民投票はあまりにも様々な争点を入れすぎた。全員の同意を取り付けて一度に何かを変えるのは難しい。」

8 「憲法改正についての国民投票についての話を聞きましょう。」

Y先生「先ほどから話に出ているように、チリでは9月に憲法を改正しようということについて国民投票がありました。ここを変えようというポイントがいくつかあったのですがそのひとつに『環境を守るための規則をもっと増やそう』というのがありました。他のポイントもあったので一概には言えませんが、開票結果を見ると、憲法を変えようという意見が勝っていたのはサンティアゴの一部のみでした。」

9 「ここまでのY先生の話聞いて、地域により環境保全に対する考え方が違う理由を考えて発表しましょう。」

・インタビュー結果



絨物関係の仕事に従事

Miguel



チリの情報サイト“elmostrador”

・開票結果の分布図



・開票の様子



・地域ごとの憲法改正に対する意見の違い

新憲法草案に反対多数の中でも Q比較的賛成が多かった地域はどんな地域？



<p>まとめ (10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・北部の人は銅鉱山関連の仕事に就いている人が多いため、憲法改正に反対が多いのではないか。 ・銅鉱山関連の仕事と関係ない人は、環境規制に賛成の立場をとれるのではないか。 ・同じ国の中でも意見が分かれる。 ・環境規制を厳しくすると生活できない人もいないか。 ・今回の Y 先生のインタビュー以外の意見もたくさんあるのではないか。 <p>10「本時を通して立場による環境保全への考え方の違いについて自分の意見を書いて発表しましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分は環境保全はとても大事なことで当然だと思っていたが、資源の利用が規制されると仕事ができなくて困る人もいることを知った。 ・環境保全は大切なことだが、立場によってはそれに反対する人もいることがわかった。 ・サンティアゴの人の環境保全に賛成の意見は自分の意見に近いと感じた。 ・同じ国の中でも地域や立場によって意見が違うので複雑だと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な意見を発表できるようにする。 	
----------------------	---	--	--

(3) 評価

南アメリカ州における環境問題と経済発展について、チリの憲法改正の国民投票結果から両方の立場の意見について考え、自分の意見をまとめることができる。(思考・判断・表現)

評価規準	基準		
	A	B	C
南アメリカ州における環境問題と経済発展について、チリの憲法改正の国民投票結果から両方の立場の意見について考え、自分の意見をまとめることができる。	★ワークシート回収 南アメリカ州における環境問題と経済発展について、資料からの情報だけでなく世界で起こっている事象や、日本に住む自分たちと関連付けながら、自分の考えを書いている。また、地球的課題についても触れている。	★ワークシート回収 南アメリカ州における環境問題と経済発展について、資料から読みとれたこと(チリの国民投票の結果、インタビュー)について触れながら自分の考えを書いている。	★ワークシート回収 南アメリカ州における環境問題と経済発展について、自分の考えを書いていない。

(4) 板書計画

チリの首都サンティアゴと鉱山の町の人の意見を比較し環境問題と経済発展について考えよう

サンティアゴ

イジャペル

環境保全は重要 ←→ 環境保全は重要でない

首都

鉱山の街

5 4 3 2 1

環境規制
→法律で義務化?
新憲法制定についての国民投票
2022年9月

(5) 参考文献

- ・『指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料社会科』
- ・『令和3年度版 新しい社会地理 教師用指導所』 東京書籍
- ・『チリを知るための60章』 明石書房
- ・『社会科教育 2022年10月号』 明治図書出版
- ・『未来の授業 私たちのSDGs 研究BOOK』 (宣伝会議) 佐藤真久 (著)
- ・『未来の授業 2 私たちのSDGs 探究BOOK』 (宣伝会議) 佐藤真久 (著)
- ・『共につくる私たちの未来 SDGs から「持続可能な社会の創り手」への一步を』 JICA 地球ひろば
- ・『生きる力を育む国際理解教育実践資料集』 埼玉県総合教育センター監修 JICA 教材作成実行委員会

(6) 参考資料

- ・JICA 横浜海外移住資料館 沖縄移民企画展示「雄飛ふたたび—沖縄移民の歴史とウチナーンチュの絆」
- ・El Mostrador El primer diario digital de Chile (チリの情報検索サイト)
- ・JICA 横浜海外移住資料館 貸出資料「弁当からミックスプレートへ」
- ・JICA 横浜海外移住資料館 貸出資料「海を渡った日系移民」
- ・JICA 横浜海外移住資料館 「日本 - ブラジル 移民カルタ」制作：移民カルタ研究会

(7) ゲストティーチャー

- ・I 先生 ボリビア サンタクルス県オキナワ市 (JICA 協力隊 2022 年度一次隊 小学校教育)
- ・Y 先生 チリ イジャペル市 (JICA 協力隊 2022 年度一次隊 小学校教育)